「らんまん」 No.9

新年を迎え、お正月の挨拶や新年の生活に関心をもった子どもたちの元気な姿が戻ってきました。３学期ともなると園生活のリズムを戻すのも早くなって順応していくのを感じます。この新しい年も無病息災を願い、子どもたちが健やかに育ち、各ご家庭に良いことがいっぱい、いっぱいありますように願います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、幼稚園ではいよいよ最後の集大成の始まりです。３学期の保育日数は、すみれ組 ４７日、ちゅうりっぷ組たんぽぽ組５１日です。この数を聞くと保護者の方々だけでなく、私たち保育者も毎年身が引き締まる思いでいっぱいです。それぞれのクラスで子どもたちが団結し、共に助け合い、力を高めて楽しく過ごしていけるように一同努力してまいります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

アナログゲームで育まれるもの　～正月遊び～

幼稚園教育では、年齢を問わず遊びを通して、生涯にわたって通用する生きるための基礎を培っています。発達段階から見ても幼児期は知識を教えられて学ぶ時期ではなく、遊びながら様々なことを学ぶ時期です。四季折々の行事や伝承遊びも大切にしています。正月遊びもその一つです。クラスでは、年齢や興味を考慮しこま回しや凧揚げ（既製・手作りのもの）、羽根つき、けん玉、かるた、すごろく、福笑いなどいろいろな正月遊びを楽しんでいます。周りの友達からの刺激を受けてやってみたり、友達同士仲よく交流するツールとして活用したりしながら、どの遊びがクラスのブームになるかが楽しみです。また、先生や友達と繰り返し楽しみながら他者とかかわる力や、文字や数量、色・形、大きさの認識、ルールの理解、社会性、言葉の発達など遊びを通して育まれるものが多くあります。バーチャルな世界が身近になってきている今、アナログゲームで是非、家庭でも直接体験の正月遊びを楽しんでほしいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「見る力」と「聞く力」

今が伸び時の子どもたち、指導のポイントは「見る・聞く力の育成」と考えています。３学期少しでも意識できれば、と思い、始業式に子どもたちに話をしました。集団生活の中で「見る力」「聞く力」が弱いと次の行動に結びつかないからです。

「聞く力」には、聞いたことを頭でイメージして理解することが必要です。例えば保育室を覗くと先生が読み手となりかるたとりをしていて、目の前のかるたをじっと見る姿、先生が何を言うか耳を傾けて聞こうとする姿から絵札と言葉を繋げ、行動に結びついていることがかるたとりの場面から感じ取れました。幼少期は、自分の体験したことを中心に理解しますが、小学校以降は、知らないことを聞いてもイメージをわかせ理解していくことがたくさんあります。そのためには、「絵本や本をたくさん読むこと（読み聞かせ）」や「見たり、聞いたりすることが楽しい」体験を繰り返すことが大切だと思います。

知らない世界にもイメージをわかせていく体験を積み重ねることが小学校以降の学習にもつながると思います。触れ合いを大事にして、子どもの話をもっと真剣に聞いてあげるようにすると、聞いてもらえる喜び・話したい意欲につながります。残りの日々を幼稚園と保護者の両輪で育てていきましょう。

文責　西川朋子